

WebEDI、統合EDIサービスの二つのEDIサービスにより、
サプライチェーンにおけるデータ連携を密にし、
高い業務改善効果をもたらします

受発注を中心としたBtoBのデータ連携手段であるEDIは、業界によっては既に十分に行き渡っています。一方で、EDIが十分に普及していない業界、業種、業務も見受けられます。データ連携と言いつつ手作業の部分がが多く効果が不十分であったり、導入するのにかかる手間やコストが障壁になったりしていることもあります。効果が大きく、導入が容易で、安心して使えるツールが必要です。

Supply Chain Data Serviceでは、業種業務ごとに、また発注側受注側の各々にとって最も効果的なEDIサービスをご提供することで、業務効率化の面や、システム構築の容易さの面で最適なデータ連携を実現します。これにより、サプライチェーン全体の情報伝達をデータ化し、さらに高い業務改善効果をもたらすことを目指した情報共有と分析の足掛かりとなるデータ連携基盤としてご利用いただくことが可能となります。

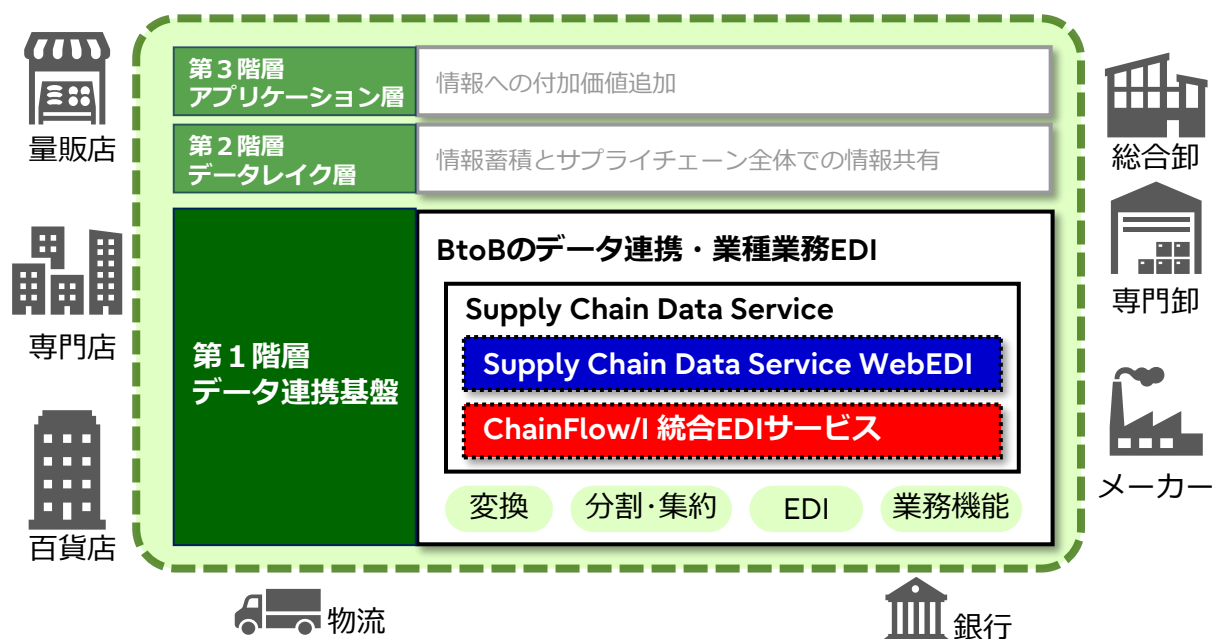
Supply Chain Data Serviceの概要

Supply Chain Data Utilizationでは、データ連携基盤、データレイク、アプリケーションの三階層で構成され、サプライチェーン全域で情報共有することで、社内の効率化だけでなく、サプライチェーンを構成するステークホルダー全体の効率を高めます。

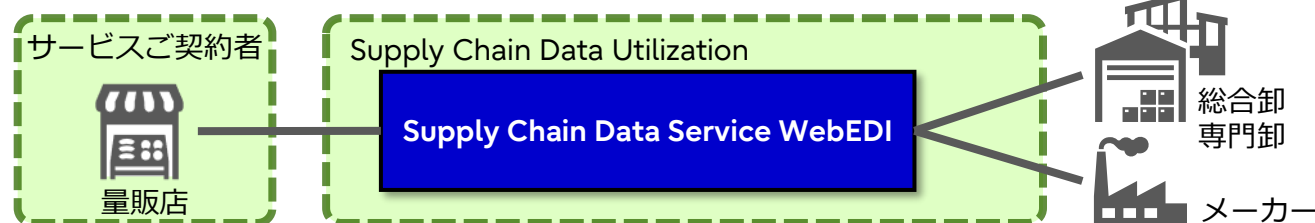
第1階層にあたるデータ連携基盤であるSupply Chain Data Serviceは、サプライチェーンのプレイヤー間での直接のデータ連携や、あるいはデータレイク層のデータを共有するためのプラットフォームとして使用されます。

Supply Chain Data Serviceは、Supply Chain Data Service WebEDIと、ChainFlow/I 統合EDIサービスの二つのサービスを中心に構成されています。データ連携基盤のサービスはSupply Chain Data Serviceだけでなく、同様に富士通グループのサービスであるTradeFront/6Gや、コンセプトの共通する他のサービスによって構成することも可能です。

Supply Chain Data Utilizationの機能関連図とデータ連携のイメージ



Supply Chain Data Service WebEDI



サービスの特長

SCDS WebEDIは、ターンアラウンド伝票を利用する量販店の発注・仕入業務に使用していただく業務改善ツールとしてのEDIサービスです。

お客様は、仕入先にWebEDIを使用してもらうことで、入荷検品業務を大幅に効率化したり、受領データを送ることで請求レス運用を実現したりして、発注仕入業務を大幅に省力化することが可能となります。

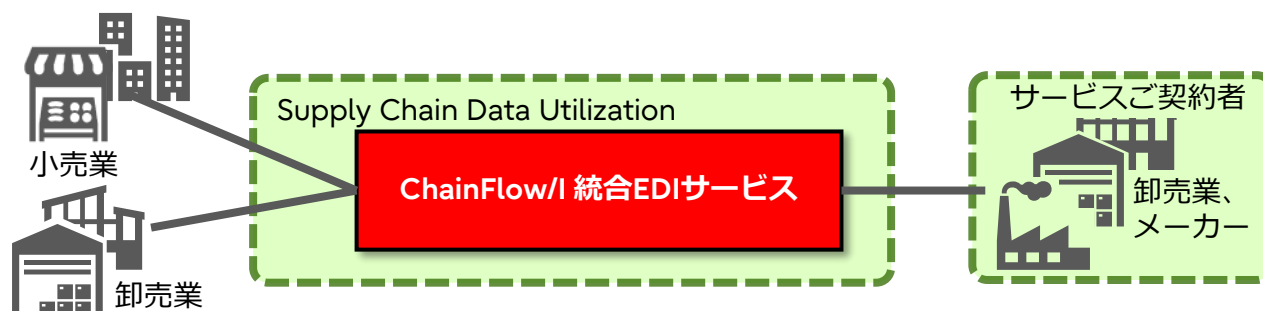
仕入先は、パソコンがあればEDI化が可能で、新たなシステム投資は必要ありません。自前で作った出荷データをアップロードしたり、流通BMSで送信したりすることで、手作業での入出力を不要とすることも可能です。

選ばれる理由

SCDS WebEDIは、前身であるChainFlowから数えて20年以上に渡って量販店を中心に40社を越えるお客様にご利用いただいています。その大きな理由の一つは、量販店業務にマッチした機能面の充実によるものです。これまでの量販店サポートのノウハウを活かし、超大手仕入先から中小零細仕入先まで各々の運用にあった機能をご提供する、現場指向のEDIサービスとなっています。

もう一つの理由として、仕入先向けのヘルプデスクサービスがあげられます。画面操作からブラウザの設定に至るまで、ヘルプデスクで丁寧にQA対応を行うことで、お客様は安心してSCDS WebEDIを導入することが可能です。

ChainFlow/I 統合EDIサービス



サービスの特長

ChainFlow/I 統合EDIサービスは、主として食品業界の卸売業、製造業で使用していただく汎用的なEDIサービスです。

サプライチェーンでは、小売業が発注を行ない、上流の卸売業、製造業は受注した商品を出荷します。この時、発注データの送受信方法やデータ形式は小売業によって様々であり、卸売業、製造業は相手ごとに合わせてシステムを構築する必要がありました。ChainFlow/I 統合EDIサービスは、様々な通信手順や発注方法に対応するだけでなく、データ変換機能や、データクレンジング機能を持つことで、受注出荷に係わるシステム機能をシンプルにすることができます。

選ばれる理由

ChainFlow/I 統合EDIサービスは、10数年で90社にのぼるお客様に採用いただきました。その理由の一つは、SaaSサービスでありながら、発注元からのシステム的な依頼（例えば流通BMSの導入やデータフォーマット変更など）に対してお客様自身で設定変更や追加作業を行えるようなツールが提供されており、あたかも自社専用システムの様に運用していただくことができます。

逆に日常運用をすべて富士通に依頼いただく業務委託オプションも提供されており、お客様は自社の事情に合わせて運用方式を選択することができます。

お問い合わせ先

富士通株式会社

富士通コンタクトライン（総合窓口）0120-933-200

受付時間：9:00～12:00および13:00～17:30（土・日・祝日・当社指定の休業日を除く）

[お問い合わせフォーム](#)

